

No. **251**
2005

社会教育の振興を目指して

石川県公民館連合会 会長 小寺 昭久 氏



昭和41年5月に開館した県立社会教育センターは、当時文部省から「県立社会教育施設として近未来を先取りしたモデルケースである」と、全国都道府県に推奨された折紙付きの施設であった。

以来、このセンターは、本県社会教育の拠点となり、県段階における社会教育諸団体の事務局が置かれ、石川県公民館連合会をはじめ10団体及びその県内組織・会員から喜ばれている。また、センターは県・市町村関係者の養成、研修、県民の学習ニーズに応えた各種講座や事業の実施、生涯学習情報の提供、県民大学の運営などを通じて本県社会教育の振興に貢献のあったことは、県民の認めることである。

現在、少子高齢化や県民のライフスタイルの多様化が進み、地域社会が抱える課題も多く、社会教育諸団体としては、今後とも健全で豊かな県民性を培うことを目指して活動を積極的に展開してまいりたい。

県公民館連合会としては、諸課題の解決に向かって、地域住民と行政の協働事業を進め、地域活動に参画できる人材の発掘と育成を図るとともに、それぞれの公民館が地域の社会教育・生涯学習を束ねる機能を持ち、地域の諸施設をつなぐネットワークの中核として位置づけられるよう努めたい。

また、市町村の合併が一段落した今、住民の新たなつながりが不可欠となっている。お互いに協力しあう交流を通じて、地域における未来志向のネットワークが県内各地に築かれるよう期待している。

特集 県民大学の現状とこれから

◆ 現状と課題 ◆

○ 県民大学の開校

平成元年県策定の「21世紀へのビジョン」で「豊かな自然・文化の継承発展」がうたわれ、これに対応した県民の育成と「多様化・高度化した県民の生涯学習要求」に対応するため、平成2年に石川県民大学が開校されました。平成11年には大学校修了生を対象とした大学院（「石川の博士」養成講座）が開校され、石川県の歴史、文学、自然に関連した専門的な学識の修得を目指すコースとともに、自らが講師となり生涯学習に関する各種講座を企画運営する人材養成コースが設けられました。

○ 県民大学の充実

開校以来16年目を迎えて、県民大学は、県内にある様々な学習機会を体系化し、県民に広く学習の場を提供する「総合的・広域的学習サービス提供システム」として機能しています。この間、修了生は延べ9,260名、今年度の講座数も多く関係機関との連携により814講座（平成17年9月現在）を数えるようになり、今や県民大学は石川の生涯学習のシンボリック的存在といえるようになりました。

○ 県民大学の課題

平成16年策定の「石川県生涯学習振興ビジョン」では、「学習成果を生かした社会参加」と「生涯学習の指導者の養成・確保」が打ち出されています。県民大学大学院修了生には、「あいあいネット」に講師登録をされている会員の方が32名おり、メンバーが講師として各地の講座で活躍している「いしかわ講師の会」もあります。しかしながら、全体としてみるとこのような活動をしている方々は一部にとどまっています。「2007年問題」を目前に控えた大きな課題としては、県民大学及び大学院を修了された方で講師やボランティア活動を希望される方の支援を進めることであるといえます。

県民大学 入校生・修了生の推移 単位：人



◆ これからの方向性 ◆

Q1 県内には、歴史・文学・自然などの研究や、まちづくりや福祉・介護などのボランティア活動をしている方は多数いると思います。このような人たちに、その成果の発表の機会を設けてはどうでしょうか。

A1 生涯学習センターでは、今年から「県民企画講座」を実施します。これは、生涯学習支援の観点から広く県民の皆さんに生涯学習活動やボランティア活動などを通して培った成果の発表を呼びかけるものです。初回の今年度は28名の皆さんから応募があり、そのうちの6名の方に発表いただきます。11月6日(日)・12日(土)の両日、各3名の方が発表します。多くの方に聴講していただきたい講座です。

Q2 いわゆる団塊の世代が定年を迎え始める「2007年問題」を目前にして、団塊の世代を含む青壮年層のボランティア活動をはじめとする社会参加活動への取り組みへの支援が必要ではないでしょうか。

A2 シニアライフコーディネーター講座を今年度見直しました。シニアの生きがいづくり、仲間づくり、情報づくりなどを手助けするコーディネーターを養成することを主なねらいとして、カウンセリング、まちづくり、ボランティアを3本柱としています。これからは、団塊の世代を含む青壮年層をも対象にした現代社会や地域が抱える課題に積極的に取り組む人材の養成を目的とする講座を開校し、このことを通じて県民参画型社会の実現に寄与していきたいと思っています。

Q3 近年、わが国では、民間にできることは民間に委せるという観点から、「官から民への移行」が唱えられています。生涯学習については民間教育事業者との関係をどのように考えていますか。

A3 「石川県生涯学習振興ビジョン」において、連携と協業による生涯学習の推進が唱えられています。この中には、市町や学校に加えて、民間との連携・協働がうたわれています。当センターとしては、民間教育事業者との積極的な連携でお互いに補完し合う関係を築き、県民大学として県民のニーズに応えた良質な講座提供を図ることで本県の生涯学習の振興に努めていきたいと考えています。

“出会い” (3)

仲間と共に

川部 謙三 氏

(石川県生涯学習インストラクターの会 会長、
石川県民大学大学院 講師養成コース受講)



教職の道一筋に歩いて42年、定年退職の日を迎え、七尾市社会教育指導員として青少年連絡協議会・健老大学講座の事務局を担当させて頂きました。各種団体の方々との出会いにより生きる力を与えて頂きました。初めて出会う生涯学習。暗中摸索の中、生涯学習インストラクター資格取得の道があることを知り通信教育で学習しました。

いろいろと学ぶうちに一人では何も出来ないことに気がつき、仲間呼びかけ平成14年に「石川県生涯学習インストラクターの会」を立ち上げ、会員と共に「昔の遊び文化教室、子ども居場所づくり、七尾市健老大学講座」など、県下の小・中・高等学校、公民館、子ども会等、年間約7,000人の参加者、会員約800人の活動に、全員一丸となって取り組んでいい汗を流しています。私は日頃の活動に参加しながら、各自が課題を見つけひとりひとりに自ら学び考える力が養われていく、それが生涯学習であることを痛感しています。出会いの度に得られる笑顔をたよりに仲間と共に歩み続けて行きます。

新規 ふるさと学習リレー講座／ふるさとリレー展示

…県内各市町の生涯学習への取り組みと成果の発表…

9月10日(土)、県内各市町による「ふるさと学習リレー講座(全5回)」が開講しました。これとタイアップして参加市町の「ふるさとリレー展示(全5期)」が開催されています。県教委「ふるさと教育」推進事業の一環として、生涯学習の最新情報や地域色豊かな取り組みを実践者の生の声や作品・パネルで紹介します。ご参加、ご高覧をお待ちしております。

担当市町	講座日	展示期間
① 能登町、羽咋市、野々市町、川北町	9/10(土)	9/3(土)～9/20(火)
② 珠洲市、中能登町、かほく市、小松市	10/8(土)	10/1(土)～10/19(水)
③ 門前町、宝達志水町、津幡町、白山市	11/5(土)	10/29(土)～11/16(水)
④ 輪島市、七尾市、内灘町、能美市	12/10(土)	11/26(土)～12/14(水)
⑤ 穴水町、志賀町、金沢市、加賀市	1/21(土)	1/21(土)～2/10(金)